

東京都区内は意外なほど緑が多い。私の勤務先である第一生命館の近くでも、皇居やその外苑、日比谷公園は昼の散歩に適している場所だ。運動不足の解消と気分転換を兼ねて特段の事がない限り昼休みに **Walking** する事になっている。当社界限は皇居、日比谷公園と運動する場所には事欠かない。有楽町駅から大手町駅まで地下通路を歩く事も出来るので、天気が悪くても歩こうと思えば出来る。もう今では廃れてしまったのかもしれないが、銀ブラをしようと思えば出来ない事もない。第一生命館を起点にして所謂30分行程の範囲で特色のある散策コースを設定できる。

大手町～有楽町間の地下通路は単線ではなく、平行する通路とそれらを結ぶ数本の連絡通路で構成されているので、幾つものコースを設定出来るその時の気分次第でコースを自在に選べるのも好都合である。偶にはウィンドーショッピングも出来る。

天気の良い時は、本格的な(?)運動服姿で皇居の周囲をジョギングしている人を見掛けるし、上着を脱いだサラリーマンらしき年配者が或る人は速足で、或グループは談笑しつつのんびりと言う具合に様々である。47都道府県の花を彫刻したレリーフを逐次に確認しつつ歩くのも良し、大手門から東御苑のその折々の花や緑を眺めながら平川門に抜けてみるのも、少し時間は掛かるが知る人ぞ知る散策コースである。

ジョギングや散歩の難点は、終えてから身体の手入れが出来ない事だ。残念ながら、会社にそのような場所が設けられている訳ではないし、公共の施設には勿論そんな施設はない。汗をかかない程度に歩くのが関の山だ。

東京都の緑率(みどりりつ)が全体としては約63%であり、区部は約29%である。29%と言う数字を多いと見るか少ないと見るかは見解の分かれる所ではあろうが、東京即コンクリートジャングルと即断してしまう私などは『意外に多いなあ』と感じるのだが・・。

東京都区部の緑は皇居を中心にした場合西に偏在しているようだ。規模の大きい公園等は何れも西側にある。新宿御苑が58ha、代々木公園が66ha、明治神宮の内苑が、70ha等である。神宮外苑が51haである。これらに皇居前広場をあわせると約400haである。更には、中小の公園を併せるとその規模は大きくなるのだろう。

東京と言うと近代的なビルや文化に目を奪われてしまうが、徳川幕府開闢以来の歴史が人に知られる事なくあちらこちらに埋め込まれている。有り難い事にそれら由緒ある場所や歴史的な遺跡には適切な説明が伏してある。一寸立ち止まってそれらに目を通し、日本の近代への夜明けから前の大戦における敗戦、そして戦後復興と言う激動の様に思いを馳せてみるのも良かろう。

せわしなく歩いているサラリーマンやOL達はそれ等に目も呉れようとしない。大手町まで歩いてみると「美土代町」の由来や概地区が、江戸時代には如何なる地域であったかというようなことを記載した案内板がある。鍛冶橋その他もそうである。そのような案内板を随所に見かける。

言うまでもなく、日比谷公園も格好の散歩コースだ。四季折々の花が公園の第一と第二

の花壇や園内の樹木に咲き誇る。パンフレットの花暦に記載されている花だけでも、数十種に及ぶ。

日比谷公園は、鍋島藩松平肥前守の屋敷跡で、明治初期には陸軍の練兵場であった。日本初の洋式庭園として明治 36 年(1903)に開園した。此処にも面白い物が幾つかある。南極の石、石貨、京橋の欄干、池の形とその夫々に設置されている噴水にも特色がある。曰く、鶴の噴水であり、亀の噴水でありはたまた鴟の噴水という具合だ。図書館、公会堂、大小二つの音楽堂も園内にある。

公園のベンチで仲良く語らう恋人らしきカップル、おしゃべりと食欲が盛んな OL のグループ。本を読んでいる中年の会社員。その側を老年夫婦が静かに語らいながら過ぎていく。まさに平和そのものの昼の風景である。

何年かぶりに東京のヒートアイランド現象に悩まされる事になるかと思うとうんざりだ。何か、抜本的な解決策はないものだろうか。緑地面積の拡大は行政のみの責任ではあるまい。個人としても為すべき事があるのではなかろうか。

(了)